

2010年1月24日 主日礼拝

司会	①梅津兄	②高山吉兄	③小嶋兄
奏楽			
祈禱	①石橋兄	②川田兄	
賛美	聖歌602番	(故高石兄の愛唱歌)	
		(主イエスをほめよ)	
十戒			
聖書	①②ピリピ人への手紙2章12～18節		
	③使徒行伝2章29～33節		
音楽	①②北島姉&白鳥姉		
	③ポーマン師(チェロ)		
メッセージ	①②「誇りある辺境人」 倉知契副牧師		
	③「変わらない恵みと愛」 ベアンテ・ポーマン師		
	(通訳-ルリ子先生)		
賛美	「明日はどんな日か」(献金)		
主の祈り			
祝禱			

「わたしはエッセイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心になつた人で、わたしの思うところを、ことごとく実行してくれるであらう。」
(使徒行伝十三の二十二)

石の枕

One said「ナオミ会の「ダビデ劇」(主役のダビデ少年は94才)はすばらしくった。元気をもらいました。最後に大川牧師がウラ若い女性たちに囲まれてのシーンは、さながら宝塚のラストシーンに観えました」牧師が星組を代表して男役として飛入り(みにスター・英語で牧師のこと)、女性たちは月組(人生のフルムーン・古い月でなく満月のこと)。

丁度牧師の誕生日を祝っていただく日で、美しい花を添えていただいて、我が生涯の忘れがたいフィナーレとなりました。また、誕生日に、信徒会をはじめ多くの方々のカード及びプレゼントに、この欄をおかりしてお礼を申し上げます。

『寒花晩節』とは、冬の花がいつまでも香りを保ち続けるように、人間も晩年の人生を充分全うすることによって、その人が生きている時だけでなく、死んでからもよい香りを放つ人生になるということを意味する言葉です。若い時も大切ですが、年をとってからがもっと大切と言えます。

友だちの荒木牧師が「本当のクリスチャンは、その人がいなくなってからもキリストの香りが残っているような人のことやろなあ」と言って、闘病生活をし、病床ではいつも病院関係者や見舞客に感謝をし、入院している人のために祈り、牧師としての人生を全うしました。彼のことを思い出すたびに、彼を支えたキリストの香りがしてきます。キリストの香りは、できる力に満ちているところではなく、できないことが増えてゆくところに香るものであるように思います。(「信徒の友」2月号・春名康範師より)

まもなく寒梅が花を咲かせることでしょう。新島襄が「真理は寒梅の如し」と詠いましたが、寒さ暗さ辛さの中でどういう態度で生きるか、それが自分にも問われているのだと思うと、身が引き締まる思いがします。

先週は「高石公夫兄」の召天式をした。65才は超若い。遺された家族のために祈りたい。召される数日前のこと、ほとんど意識を失い、今召されるかもしれないという状況で電話をかけた。私が祈りだすと、意識がもどり、ハッキリとうなずき、最後はアーメンと応えてくれた。走るべき道のりを走り終え、人生の戦いに勝利し、主の御もとに凱旋(がいせん)された。主にハレルヤ！です。

愛兄姉の長い間の祈りと支えに心から感謝し、栄光を主に捧げます。

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！

Aコース:マタイ17章～20章 Bコース:出エジプト記7章～24章

【大和ニュース】

- ・ 久々に「ポーマン師ご夫妻」をお迎えできて感謝です。スウェーデンからの宣教師でもあり、現役の東京交響楽団の首席チェロ奏者でもあります。
 - ・ 本日の「洗礼準備会」には転入会希望者も必ずご出席下さい。
 - ・ 本日、アブラハム会、モーセ会、カレブとエステル合同(森・1時半)・J.プラス、役員会あり。
 - ・ 今週も祈禱会を大切に！説教は梶山師と大川師。(※ルツバラ会は木曜昼食後)
 - ・ 福音礼拝は、火曜夜2時半～3時半。説教は坪井副牧師。
 - ・ 準備祈禱会は、金曜夜9時～10時半。説教は森屋伝道師。
 - ・ 『週末礼拝』(Weekend Worship)は、土曜夜6時～6時59分。説教は倉知師。
- ※ 2月10日(水・19時半)と11日(祝・14時)の「ミラクル聖会」は、超オススメです。